

市民参加による 協働の計画づくり（H20 策定時）

第1章 市民参加による協働の計画づくり

第1節 市民会議の取り組み経緯

はじめに

総合計画の策定にあたり、大きな特色は市民の目線から行政を見つめ、生活に結びつく市の将来のあるべき姿を思い描き、着実に実現するための方策を考えました。

市民会議は、公募委員と各種団体からの推薦者から構成され、健康福祉、教育、都市形成・環境、

行政改革・協働の4部会に分かれ、それぞれのテーマにそって討議・全体会を開催しました。

現状を把握しつつ、市民の視点に立った計画とするため、市民会議と市職員プロジェクトチームでSWOT分析を活用し、基本構想・基本計画の骨格を導き出しました。

《市民会議開催経過》

- | | |
|---|--|
| <p>1 総合計画全体研修会 (H20.9.30)</p> <p>総合計画の必要性、市民が参加する理由などの共通認識と策定方針について確認を行う。</p> | <p>8 第7回市民会議 (H21.6.27～7.2)</p> <p>SWOT分析の強みと機会から、市民会議からの具体的な提言について、討議を行う。</p> |
| <p>2 第1回市民会議 (H20.11.3～11.6)</p> <p>各部会ごとのSWOT分析について、その目的や手順の説明を受け、相生市の強み・弱み、外部環境の機会・脅威を抽出した。</p> | <p>9 第8回市民会議 (H21.8.11～13)</p> <p>基本構想修正案(事務局案)に対し、意見・修正を行う。</p> |
| <p>3 第2回市民会議 (H20.12.2～12.9)</p> <p>SWOTのクロス分析を行い、施策の素案作成のため素材づくりに取り組む。</p> | <p>10 第9回市民会議 (H21.11.25～30)</p> <p>施策素案(基本計画)に対して指標の抽出を行う。</p> |
| <p>4 第3回市民会議 (H21.1.20～1.29)</p> <p>引き続きSWOT分析を行い、施策要素から各部会ごとのまちづくり目標について討議を行う。</p> | <p>11 第10回市民会議 (H22.1.27～29)</p> <p>これまでの市民会議各部会での意見・提言について取りまとめた。</p> |
| <p>5 第4回市民会議 (H21.2.23～2.27)</p> <p>アンケート調査結果を参考に、引き続きまちづくり目標を討議し、各部会ごとに将来像について提案し、討議を行う。</p> | <p>12 第11回市民会議 (H22.3.26～31)</p> <p>引き続き、市民会議各部会での意見・提言の取りまとめと、基本構想・基本計画素案に対しての意見・修正を行う。</p> |
| <p>6 第5回市民会議 (H21.3.31～4.3)</p> <p>将来像について引き続き討議し、各部会の意見として取りまとめた。</p> | <p>13 総合計画素案総括 (H22.5.7)</p> <p>市民が参加した総合計画策定について有識者(大学教授)より総括を行う。</p> |
| <p>7 第6回市民会議 (H21.5.1)</p> <p>全体会を開催し、基本構想案(事務局案)の提示に対し、意見・修正を行う。</p> | |

第2節 市民会議メンバー

部会名	氏名	備考	部会名	氏名	備考
健康福祉部会	堤 正恒	公募	都市形成・環境部会	(故)中江 勲	公募
	川上 栄次郎	相生市連合自治会		原田 欣典	公募
	起田 泰介	相生市医師会		佐々木 佐和子	公募
	友田 笑子	相生市高年クラブ連合会		山下 綾子	公募
	小林 正	相生市身体障害者協会		前田 早智子	公募
	清水 一	相生市ボランティア協会		石原 茂子	相生市花と緑の協会
	谷口 貴一郎	相生青年会議所		宮崎 秀隆	相生商工会議所
	表谷 潤子	相生市消費生活研究会		荻 人美	相生市環境保全審議会
教育部会	梅内 千秋	公募	行政改革部会	(故)田中 光彦	公募
	藤野 高之	公募		畑本 康介	公募
	日谷 聖一	公募		原 英機	公募
	河村 幸子	相生市国際交流協会		中本 義信	公募
	荒瀧 紀	相生市社会教育委員会		浜田 郁子	公募
	澁谷 祐吉	相生市文化協会		横家 育代	相生市行政改革懇話会
	吉田 竜也	相生市体育協会		宮垣 博幸	相生パーロン協会

第3節 SWOT分析とは？

SWOT分析は、企業が今後の取り組みを考えるときに用いる手法であり、今回、総合計画を作成するにあたって、市や組織についての内部環境と外部環境の2つの視点から、内部に持つ「強み・弱み」と、外部から影響を受けると考えられる「機会（チャンス）・脅威」をそれぞれ整理しながら市民会議と職員で構成されるプロジェクトチームでまちづくりを考えていく、手法として活用しました。

また、SWOTとは、「強み（Strength）」、「弱

み（Weakness）」と「求められること・機会（Opportunity）」、「してはならないこと・脅威（Threat）」であり、そこから、機会に応じた強みの「攻めるべきこと・活用策」、機会を活かした弱みの「改善すべきこと・改善策」、強みを活かした脅威の「回避すべきこと・回避・解消策」、脅威に対する弱みの「退くべきこと・撤退策」をいろいろな立場の人で考え出し、整理して、素案作成のための材料としました。

《SWOT分析による効果的な取り組みの抽出》

	S：強み（Strength） W：弱み（Weakness） O：機会（Opportunity） T：脅威（Threat）	内部環境（相生市の概況）	
		強み（S） 相生市の良いところ、魅力あるところ、優れているところなど	弱み（W） 相生市の悪いところ、劣っているところなど
外部環境（社会潮流）	求められること ：機会（O） 世の中の動きとして求められていることや、実際に市民が求めていること	攻めるべきこと ：活用策 相生市の強みで、社会的にも求められていることは積極的に取り組む	改善すべきこと ：改善策 相生市の弱みで、社会的に求められていることは改善して取り組む
	してはならないこと ：脅威（T） 世の中の動きとして、求められていないことや、実際に市民が求めていること	回避すべきこと ：回避・解消策 相生市の強みではあるが、社会的潮流からみて、してはならないことは、強みで社会的脅威をカバーしていく	退くべきこと ：撤退策 相生市の弱みでもあり、社会的潮流からみて、してはならないことは撤退していく

第4節 SWOT 分析により導き出したアイデア

健康福祉部会

○市民が家族の絆を大切にして、地域の人々が暖かい心で結ばれるよう、まち全体のネットワークづくりを行いましょ

○全ての市民が主体的に健康づくりや福祉に関わり、いきいきと、自立し、安心して暮らせる社会を目指しましょ

○共感を基本とし、地域全体と一緒に子育てできるまちづくりを行いましょ

【主な施策アイデア】

★「お助けグループ」

高齢者や団塊の世代の知恵・技能を活かし、積極的に社会活動への参加とちょっとした困りごとを手助けしてもらえる相互扶助の制度創設

★「がんこおやし塾」

日本の伝統文化、行儀・作法などの伝承を行いながら、子育てをサポートする制度

★「かかりつけ医制度」

市民病院をかかりつけ医の先駆けにし、市民の健康保持と、病院の活性化を図る

★「保険料マイレージ制度」

病院にかかった履歴の少ない人には、保険料などが安くなるような有利性を持たせることで、健康づくりの重要性の周知と医療費を抑制する。

教育部会

○学校・家庭・地域の連携のもと、互いに思いやる心、生命や人権を大切にする心を育む教育活動を行いましょ

○学ぼうとする意欲を育み、自分の可能性を切り拓く教育活動を行いましょ

○誰もが心豊かに生きがいを持って暮らせるよう、学習、スポーツ、芸術文化活動を活発にしましょ

【主な施策アイデア】

★「ディベート大会の実施」

生きる力を身につけるため、社会人として必要な学力に加え、論理的思考力、分析力、洞察力、質問力、問題解決力などを向上させる。

★「もったいない給食事業」

子ども自らが食べる給食の食材を、農業体験を通じて自ら作り、得るまでの苦労と敬愛の念など「もったいない」と思ふ心の教育と労働の大切さを体験させる。

★「暮らしの知恵袋事業」

県民交流広場や学校施設の空き教室を利用し、昔学んだこと、生活の知恵、特技など市民が講師となり、子どもだけに限らず、全ての世代が集えるような環境づくりをし、世代間交流を促進させることにより、地域力を向上させる。

★「校庭芝生化事業」

市内小・中学校の校庭を芝生化し、屋外で遊ぶ子どもを増やすことで、体力の向上や社会性を育むとともに、芝生の手入れなどを地域で行うことにより、地域コミュニティの活性化を図る。

都市形成・環境部会

○相生のイメージアップと住みよい環境をつくり、定住を促進しましょう。

○鉄道・陸路・海路に恵まれた利点を活かし、企業の誘致や起業への取り組みを支援することで、雇用の創出を図りましょう。

○豊かな自然環境の保全のため、新エネルギーや家庭でのエコ活動など低炭素社会の実現に取り組みましょう。

○市全体が一体となった地域産業の振興や民間活力で、地域の活性化を図り、次世代につなげていきましょう。

【主な施策アイデア】

★「定住促進事業」

田舎暮らし制度や三世代居住優遇制度などの定住促進環境の新制度を整備するとともに、京阪神への通勤の利便性を積極的にPRを行い、定住促進を図る。

★「観光ルートづくり事業」

相生市はもとより近隣市町の名所なども取り入れた観光ルートづくりやマップなどで、来訪者が西播磨地域を巡りやすい環境をつくる。

また、市民主体のボランティアガイドを育成し、市をアピールしていくなどにより交流人口を増加させ、地域経済の活性化につなげる。

★「空き家等活用事業」

空き家・空き地を有効利用をすることにより、人、産業、文化などの資源を活性化し、新たなビジネスモデルを展開することで、地域経済の活性化と人口増対策を図る。

行政改革・協働部会

○市民は、まちづくりに主体的に参加し、また、行政は市民と相互に補完しあいながら、協働参画社会の実現を目指しましょう。

○各施策・事業を行うにあたっては、協働とともに行政改革、健全な財政運営の大切さを十分に認識しましょう。

【主な施策アイデア】

★「モラルアップ運動」

様々なイベントなどのなかで、モラルやマナーに着眼点を置いた活動を行う。

★「協働事業の見える化」

市民が市の行事などへ1人でも参加しやすいように、対象事業について、行政との役割分担を具体的に分かりやすく周知することにより、協働のまちづくりを実現していく。

★「職員のスキルUP」

市民との対話のノウハウを向上し、建設的な意見の中から、新たな発想で政策を作り上げる能力を身につける。

※このアイデアは、市民会議などで出されたもので、相生市として実施検討したものではありません。しかしながら、今後、実施する市の施策を検討するなかにおいて、参考としていきます。

発 行 / 平成 28 年 3 月

発行者 / 兵庫県相生市

〒 678-8585 兵庫県相生市旭一丁目 1 番 3 号

TEL 0791-23-7124

FAX 0791-22-6439

編 集 / 企画総務部企画広報課



相生市